

「SPP 技術演習」における学びの検討

－ 教えられる経験を通しての学習レポートの分析 －

上田ゆみ子、森 礼子、大見サキエ
小西真人、柴田美意子、岡本名珠子

Learning in the “SPP Skills” course: Analysis of Student Reports after the Experiences of being taught

Yumiko UEDA, Reiko MORI, Sakie OMI
Masato KONISHI, Miiko SHIBATA, Namiko OKAMOTO

キーワード：プリセプターシップ、技術指導、学習態度、看護教育

Key words : preceptor-ship skill training learning attitude nursing education

はじめに

看護学生にとって臨地実習は不可欠な過程であるにもかかわらず、人間関係が円滑にいかないことに対してストレスを感じ（加島ら、2005）、臨地実習が効果的な学習に繋がらないことが危惧される。また、新人看護師は人間関係が円滑にいかないことが離職の要因の一つになっている状況がある（内野ら、2015）。新人看護師が人間関係の中でも本来、さまざまなことを相談できるはずのプリセプターとの関係性に悩んでいることも報告されている（大久保ら、2008）。

プリセプターとは、precept（教え・教訓）を伝える者の意味で、指導者、教育者などと訳される。一方、教えを受ける者のことはプリセプティという（永井、2009）。

この「教える、教えを受ける」という方式はプリセプターシップのことであり、看護の臨床現

場で新人教育の1つとして取り入れられている。つまりプリセプターシップとは、新人看護職員1人に対して決められた経験のある先輩看護職員（プリセプター）がマンツーマン（同じ勤務を一緒に行う）で、ある一定期間新人研修を担当する方法である。この方法の理念は、新人のペースに合わせて（self-paced）、新人自らが主体に学習する（self-directed）よう、プリセプターが関わることである（厚生労働省、2014）。

臨床場においてこのプリセプターシップで、プリセプターとなることにより、その実践を通して自分自身を振り返り、看護実践能力を高めていくことが期待できる（寺澤、2003）という報告があり、この方式を取り入れている病院も少なくない。

このプリセプターシップの方式を教育の場に導入した例として、臨地実習前の下級生に上級生が看護技術指導した報告がある（杉本ら、

2012)。杉本ら(2012)は、「どちらの学年の学生も役に立ったと回答し、今後も継続して欲しいと要望していた。さらに、上級生が看護技術指導だけにとどまらず、実習全般に関することも指導していたことから、下級生は上級生に『熱心に指導してもらった』と熱意を感じている。上級生は、自分たちが経験したことを下級生に伝えることによって自らの学びの振り返りを行うことが可能となる。」と述べている。

このようなプリセプターシップをA大学看護学部では、4年生が2年生に対して、事例を通して看護技術を教える、2年生が4年生から教えるを受けるという、言うなれば「学生版疑似プリセプター・プリセプティ：Student Preceptor Preceptee」（以下、SPPとする）として、2年生には「SPP技術演習」、4年生には「SPP技術指導演習」をそれぞれ科目立てしている。この2つの科目は上級生による下級生の技術指導および下級生の技術のスキルアップと他者に教えるときの姿勢、他者から教えられるときの姿勢を学ぶこと、学年を越えて共に学ぶこと、コミュニケーション能力や連携する力を育成することを目指している。

この科目のみならず臨地実習においても「教える」「教えられる」という双方の立場から相手の心情を考え理解することによって、人間関係によるストレスが少しでも軽減され、効果的な学習につながるのではないかと考えた。

I. 用語の説明

「SPP技術演習」「SPP技術指導演習」におけるSPPとは、学生版疑似プリセプター・プリセプティ（Student Preceptor Preceptee）の略語であり、造語である。

II. 研究の意義

看護学生が看護技術指導を通して、「教えるとき」「教えられるとき」の基本姿勢として学んだことを明らかにすることで、臨地実習において教えられるときや4年生になって2年生に教

えるとき、同学年の学生間での学びの場や臨地実習における患者指導を行う場面での一助になると考える。さらに、教員が学生に対して教育・指導する際の学生の気持ちを理解することに繋がるとともに教員自身の教えるときの姿勢についての示唆が得られると考える。

III. 研究目的

「SPP技術演習」の授業終了後に、教えられる経験を通して「教えるとき、教えられるときの基本姿勢と今後の課題」についてレポートした記述内容から学びを明らかにする。

IV. 研究方法

1. 研究デザイン

質的帰納的研究デザイン

2. 研究の対象

A大学看護学部 に在籍する3年生58名のうち同意が得られた48名のレポートを分析対象とした。

3. 調査期間

2017年7月14日～7月18日

4. 調査方法

「SPP技術演習」の授業がすべて終了した事後課題として、「教えられる経験を通して教えるとき・教えられるときの基本姿勢についてと今後の課題」というテーマでA4用紙1枚のレポート提出を求めた。科目の成績が確定した後、対象学生に対して研究の趣旨と手続き、倫理的配慮について記載した依頼文書と同意書を配布して、文書および口頭で研究の内容を説明した。レポートを研究として取り扱うことについて同意が得られた学生に署名、学籍番号を記載した同意書を提出してもらった。同意書は説明後4日以内に学内のレポートボックスに投函するように依頼した。同意書の提出締切日の翌日を同意撤回書の締切日に設定して、同意撤回書を締切った後、同意の確認が取れた学生のレポートをすべてのレポートの中から抽出した。

5. 科目概要

「SPP技術演習」は2年次後期開講の必修科目1単位30時間である。一方、4年生は選択必修科目「SPP技術指導演習」1単位20時間であり、このうち2年生と4年生がともに学習をすすめる時間は12時間である。4年生があらかじめ準備していた事例をもとに、2年生が看護計画の立案および計画に沿って看護援助を実践するという一連のプロセスを学習する科目である。本研究時は、学年進行中で指導役の4年生がいないため教員が指導役を担った。

6. 分析方法

対象の学生が2016年度2年次後期に受講した「SPP技術演習」の事後課題として提出したレポートを質的帰納的に分析した。レポートは「教えるときの基本姿勢」、「教えられるときの基本姿勢」、「今後の課題」それぞれについて、類似した内容をセンテンスごとに整理し、カテゴリ化した。レポートは共同研究者間で分担し、それぞれが整理・分析した上で、統合し、コード化、カテゴリ化した。この過程において研究者間で何度も検討することで、信頼性、妥当性を確保した。

今回のレポートのテーマは、科目名に使用しているプリセプター・プリセプティに準じて「教える・教えられる基本姿勢」としていたため、その順序に従い分析を行った。

V. 倫理的配慮

本研究の実施にあたっては、倫理上の問題がないかの審議を受け、承認後に調査を実施した。（承認番号：2017-08）研究の趣旨と倫理的配慮について、文書と口頭で説明した。成績は既に確定しており、学生に不利益がないことを強調した。同意書に署名、学籍番号を記載してもらい、所定の場所に投函することによって研究参加への同意を得た。なお、同意書を提出後であっても、同意撤回書を提出することにより研究参加を中止することができることとした。同意が得られた学生のレポートの学籍番号と氏名が記

載された部分を切り取り、そこに別の記号を記載し、連結不可能匿名化とした。

VI. 結果

学生のレポートを「教えるときの基本姿勢」、「教えられるときの基本姿勢」、「今後の課題」に分けて、それぞれコードを抽出して、サブカテゴリに分類、さらにカテゴリに分類した。カテゴリは【 】, サブカテゴリは《 》, コードは[]で示す。

1. 教えるときの基本姿勢

教えるときの基本姿勢からは、50のコードが抽出され、13サブカテゴリに分類された。さらに【教える側の基本スタンス】【相手に合わせた教え方の工夫】【教えることで得るもの】の3カテゴリに分類された（表1）。以下それぞれのカテゴリを示す。

1) 教える側の基本スタンス

【教える側の基本スタンス】には《良い関係性の保持を意識する》、《相手を理解し受け入れる》、《相手の成長を考える》、《話しやすい雰囲気を作る》、《知識・技術を備えておく》の5サブカテゴリがあった。

《良い関係性の保持を意識する》には、[教える相手を尊重する]、[自分の基準を押しつけない]、[上から目線の姿勢をもってはいけない]、[一緒にわからなかったところを解決していこうという姿勢]の4つのコードが含まれていた。

《相手を理解し受け入れる》には、[相手の考えを否定せず教える]、[相手の気持ちに理解を示す]、[相手の立場になって考える]の3つのコードが含まれていた。

《相手の成長を考える》には、[相手の成長のために厳しく接する姿勢]、[優しさと厳しさを持っていること]の2つのコードが含まれていた。

《話しやすい雰囲気を作る》には、[質問しやすい雰囲気作り]、[相手が萎縮しないように笑顔を作るようにする]の2つのコードが含まれ

ていた。

《知識・技術を備えておく》には、[内容を理解し、多くの知識を持っていること]、[教える内容を十分に理解していること]、[知識を得、定着させておく]、[的確に要点をまとめる力を備えておく]、[確実な知識と豊富な経験を持つ]、[実際にお手本を見せる]の6つのコードが含まれていた。

2) 相手に合わせた教え方の工夫

【相手に合わせた教え方の工夫】には、《相手の理解するペースを把握しながら教える》、《相手に気付きを導く》、《自分の経験を含めて教える》、《学びを深めて定着させる》、《意欲を引き出す》の5サブカテゴリがあった。

《相手の理解するペースを把握しながら教える》には、[相手の理解度に合わせて教える]、[相手の個別性を尊重する]、[こまめに理解度を確認する]、[適切なタイミングでアドバイスをする]、[相手を待つ姿勢]、[相手を見守る姿勢]の6つのコードが含まれていた。

《相手に気付きを導く》には、[直ぐに答えを伝えず、ヒントを出して一緒に考えていく教え方]、[知っている情報を全て教えない姿勢]、[相手の考えを否定せず気づかせて教える]、[正しい答えに気づくことができるような導き]、[失敗に対してフォローすることで相手に気づかせる]の5つのコードが含まれていた。

《自分の経験を含めて教える》には、[教えられた側の経験を振り返り教える]、[自分が上手くいかなかったとき等の経験を活用する]、[経験を生かし適切にアドバイスをする]の3つのコードが含まれていた。

《学びを深めて定着させる》には、[ヒントやアドバイスを的確に与えて考えさせる]、[五感を使って理解できるように伝える]、[教えた内容を繰り返し伝える]、[全てを教えず相手に考えさせる]、[答えでなく、考え方を教える]、[相手にフィードバックする]、[教えられる側にまずは挑戦させる]、[間違いはその場ですぐに伝える]、[相手が理解したのかを日にちをあけて

確認する]、[相手に調べることを促す]の10のコードが含まれていた。

《意欲を引き出す》には、[意欲を引き出すために褒める]の1つのコードが含まれていた。

3) 教えることで得るもの

【教えることで得るもの】には、《教えられる者から学びを得る》、《教えることへの責任を持つ》、《復習できる》の3サブカテゴリがあった。

《教えられる者から学びを得る》には、[教える側が教えたことを振り返る]、[教える立場も学びを得る]の2つのコードが含まれていた。

《教えることへの責任を持つ》には、[相手が理解できるまで教える]、[熱意を持って精一杯の教育を行う]、[一貫性をもって教える]、[理解できていない内容が具体的に何かを追求する]の4つのコードが含まれていた。

《復習できる》には、[自分自身が教える内容について理解をし考察する]、[自分が復習し、学び直す機会となる]の2つのコードが含まれていた。

2. 教えられときの基本姿勢

教えられときの基本姿勢からは40のコードが抽出され、12サブカテゴリに分類された。さらに【教えられる側の基本態度】【主体的な学習姿勢】【相手に学ぶ意欲を見せる】【学びを深める】の4カテゴリに分類された(表2)。以下、それぞれのカテゴリを示す。

1) 教えられる側の基本態度

【教えられる側の基本態度】には、《相手との関係を良好に保つ》、《教える側に真面目な態度で接する》、《相手の話を聞き受け容れる》の3サブカテゴリがあった。

《相手との関係を良好に保つ》には、[常に謙虚な気持ちで教えてもらう]、[相手に敬意をもって教えるを乞う]、[教えてもらうことに感謝して取り組む]、[コミュニケーションを図るようにする]、[うなずきなどの聴く姿勢]、[信頼関係を築こうとする姿勢]の6つのコードが含まれていた。

《教える側に真面目な態度で接する》には、[教

える側に真面目な態度で接する姿勢]、[話を一生懸命聴く姿勢]、[提示された課題を行う姿勢]の3つのコードが含まれていた。

《相手の話を聞き受け容れる》には、[敬意を払い真摯に話を聞く姿勢]、[素直に相手の言ったことを聞き入れる姿勢]、[教えてもらったことを素直に受け止める姿勢]の3つのコードが含まれていた。

2) 主体的な学習姿勢

【主体的な学習姿勢】には、《事前学習をする》、《わからないことは明確にする》、《自分で考える》の3サブカテゴリがあった。

《事前学習をする》には、[事前・事後学習をする姿勢]、[事前準備をする姿勢]の2つのコードが含まれていた。

《わからないことは明確にする》には、[わからないことは素直に伝える]、[わからないことは明確にしておく]、[自分で調べわからないままにしない]の3つのコードが含まれていた。

《自分で考える》には、[わからないことは自分で考えてから臨む]、[まず自分で調べて学習しようとする姿勢]、[自分の意見は根拠を備えた上で相手に伝える]、[自分自身の考えに根拠を持つ]の4つのコードが含まれていた。

3) 相手に学ぶ意欲を見せる

【相手に学ぶ意欲を見せる】には、《メモをする》、《質問する》、《実践してみる》、《確認と報告をする》の4サブカテゴリがあった。

《メモをする》には、[教えてもらうときはメモを取り自分の知識を深める]、[メモを取り、同じ失敗はしない]、[必要なことはメモに取り記録する]の3つのコードが含まれていた。

《質問する》には、[積極的に質問しわからないままにしない]、[関心を持ち、積極的に質問・反応する]、[説明の途中でも分からないと思ったらその都度質問する]の3つのコードが含まれていた。

《実践してみる》には、[教えられたことを正しく実践してみる]、[理解しようとしていることを態度で示す]、[教えてもらったことはすぐ

にやってみる]の3つのコードが含まれていた。

《確認と報告をする》には、[教えてもらったことを確認する]、[実践したら報告する]、[教わった内容を実施し得られた結果を報告する]の3つのコードが含まれていた。

4) 学びを深める

【学びを深める】には、《理解を深める》、《学びを整理する》の2サブカテゴリがあった。

《理解を深める》には、[実施後に振り返りをもち改善点を見出す]、[教えてもらったことを明確にする姿勢]、[メンバー間で話し合い気づきを共有する姿勢]の3つのコードが含まれていた。

《学びを整理する》には、[教える側の伝えたい要点を理解する]、[整理して、必要性を理解しようとする姿勢]、[ポイントを絞った質問をし内容を整理する]、[教えてもらったことに対し整理して意見を述べる]の4つのコードが含まれていた。

3. 今後の課題

今後の課題からは、35のコードが抽出され、9サブカテゴリに分類された。さらに【双方共通の配慮】【教えられる側の課題】【教える側として気をつけること】の3カテゴリに分類された(表3)。以下、それぞれのカテゴリを示す。

1) 双方共通の配慮

【双方共通の配慮】には《双方が良好な関係で学習することを意識する》の1サブカテゴリがあった。

《双方が良好な関係で学習することを意識する》には、[相手に素直な姿勢で接すること]、[自分の改善点を見直し、人の言葉に耳を傾ける]、[互いの立場を理解する]、[相手とコミュニケーションを図ること]、[協力して学んでいく姿勢]、[良好な人間関係を築けるようにする]の6つのコードが含まれていた。

2) 教えられる側の課題

【教えられる側の課題】には、《積極的に学ぶ》、《主体的に取り組む》、《内容を整理し、理解を深める》、《知識を増やす》、《実践力をつける》

の5サブカテゴリがあった。

《積極的に学ぶ》には、[積極的に新しいことを学ぼうという気持ちを持って勉強をする]、[技術を盗む]、[疑問に思ったことは理解できるまで質問し、反応できるようにする]、[失敗や間違いを恐れない]の4つのコードが含まれていた。

《主体的に取り組む》には、[学習主体は自分であることを忘れない]、[学習した上で教えるを請う]、[分からないこともまずは一人で考えてみる]、[自分が必要だと思う準備をしっかりとしていく]、[予習・復習は必ず行う]、[学修のまとめをする]の6つのコードが含まれていた。

《内容を整理し、理解を深める》には、[根拠にもとづいた看護をめざし学習する]、[納得するまで追求する]、[物事を繋げて考えられるようにする]、[自分の考えを説明できる]の4つのコードが含まれていた。

《知識を増やす》には、[たくさんの知識を身につける]、[正常な体の状態、疾患や治療、治癒過程に対しての正しい知識を持つ]、[医学的な基礎学習をしっかりとやる]の3つのコードが含まれていた。

《実践力をつける》には[知恵、知識を使って実践する力]、[指導者さんからヒントをもらいながら、問題解決ができるようにする]、[常に考える援助を行う]の3つのコードが含まれていた。

3) 教える側として気をつけること

【教える側として気をつけること】には、《相手を理解した対応をする》、《教える内容を十分理解しておく》、《わかりやすい言葉で指導する》の3サブカテゴリがあった。

《相手を理解した対応をする》には、[相手が分かるまで教える]、[相手の学びの時間を確保すること]、[信頼してもらえよう自分自身の行動を振り返る]、[教えられる側の気持ちを考える]、[相手の考えを否定せずに教える]の5つのコードが含まれていた。

《教える内容を十分理解しておく》には、[自

分の理解度を自己評価する]、[事前学習をした上で、相手を理解し教える]の2つのコードが含まれていた。

《わかりやすい言葉で指導する》には、[自分の知識を自分の言葉でoutputしていく]、[簡潔にわかりやすく伝えること]の2つのコードが含まれていた。

VII. 考察

1. 教えるときの基本姿勢

教えるときの基本姿勢から抽出された3つのカテゴリは、常に相手のことを考えており、教える相手との関係性を良好にするために相手を理解し、話しやすい場の雰囲気や自分自身の知識や技術を整えることが重要であり、教えることには責任が伴うということを学んでいた。杉本ら(2012)は、「上級生が下級生に技術指導する際に、技術項目を上級生に考えさせることで責任感が生まれる」と述べており、今回の結果と一致する。教える者として相手に何を指導するかを考えるためには、相手のレディネスや性格などに対する配慮が必要である。これには、相手を思いやる気持ちが求められる。杉本ら(2012)の報告で、上級生は下級生に技術指導だけではなく、臨地実習全般について教えていた。これはこれから臨地実習に臨む下級生が実習で困らないようにという相手を思いやる気持ちの表れであると考えられる。

さらに教えることは、自己を振り返る機会となり、それによって自分自身の学びに繋ぐことができる。

本研究において、教えるときの基本姿勢に対するコードが教えられときの基本姿勢のコードよりも多く抽出された。このことは、学生が教える者としての経験が少ないために4年生になり2年生の指導を行うことを意識していた結果であると考えられる。

2. 教えられときの基本姿勢

教えられときの基本姿勢から抽出された4つのカテゴリは、教える相手との関係性を良く

「SPP技術演習」における学びの検討

表1 教えるときの基本姿勢

カテゴリ	サブカテゴリ	コード
教える側の基本スタンス	良い関係性の保持を意識する	教える相手を尊重する
		自分の基準を押しつけない
		上から目線の姿勢をもっていてはいけない
		一緒にわからなかったところを解決していこうという姿勢
	相手を理解し受け入れる	相手の考えを否定せず教える
		相手の気持ちに理解を示す
		相手の立場になって考える
	相手の成長を考える	相手の成長のために厳しく接する姿勢
		優しさと厳しさを持っていること
	話しやすい雰囲気を作る	質問しやすい雰囲気作り
		相手が萎縮しないように笑顔を作るようにする
	知識・技術を備えておく	内容を理解し、多くの知識を持っていること
		教える内容を十分に理解していること
		知識を得、定着させておく
		的確に要点をまとめる力を備えておく
		確実な知識と豊富な経験を持つ
相手に合わせた教え方の工夫	相手の理解するペースを把握しながら教える	実際にお手本を見せる
		相手の理解度に合わせて教える
		相手の個別性を尊重する
		こまめに理解度を確認する
		適切なタイミングでアドバイスをする
	相手に気づきを導く	相手を待つ姿勢
		相手を見守る姿勢
		直ぐに答えを伝えず、ヒントを出して一緒に考えていく教え方
		知っている情報を全て教えない姿勢
		相手の考えを否定せず気づかせて教える
	自分の経験を含めて教える	正しい答えに気づくことができるような導き
		失敗に対してフォローすることで相手に気づかせる
		教えられた側の経験を振り返り教える
	学びを深めて定着させる	自分が上手いかなかったとき等の経験を活用する
		経験を生かし適切にアドバイスをする
		ヒントやアドバイスを的確に与えて考えさせる
		五感を使って理解できるように伝える
		教えた内容を繰り返し伝える
		全てを教えず相手に考えさせる
		答えでなく、考え方を教える
		相手にフィードバックする
		教えられる側にまずは挑戦させる
		間違いはその場ですぐに伝える
教えることで得るもの	教えられる者から学びを得る	相手が理解したのかを日にちをあけて確認する
		相手に調べることを促す
	教えることへの責任を持つ	意欲を引き出す
		意欲を引き出すために褒める
		教える側が教えたことを振り返る
	復習できる	教える立場も学びを得る
		相手が理解できるまで教える
		熱意を持って精一杯の教育を行う
		一貫性をもって教える
		理解できていない内容が具体的に何かを追求する
		自分自身が教える内容について理解をし考察する
		自分が復習し、学び直す機会となる

表2 教えられるときの基本姿勢

カテゴリ	サブカテゴリ	コード
教えられる側の基本態度	相手との関係を良好に保つ	常に謙虚な気持ちで教えてもらう
		相手に敬意をもって教えるを乞う
		教えてもらうことに感謝して取り組む
		コミュニケーションを図るようにする
		うなずきなどの聴く姿勢
		信頼関係を築こうとする姿勢
	教える側に真面目な態度で接する	教える側に真面目な態度で接する姿勢
		話を一生懸命聴く姿勢
		提示された課題を行う姿勢
	相手の話を聞き受け容れる	敬意を払い真摯に話を聞く姿勢
		素直に相手の言ったことを聞き入れる姿勢
		教えてもらったことを素直に受け止める姿勢
主体的な学習姿勢	事前学習をする	事前・事後学習をする姿勢
		事前準備をする姿勢
	わからないことは明確にする	わからないことは素直に伝える
		わからないことは明確にしておく
		自分で調べわからないままにしない
	自分で考える	わからないことは自分で考えてから臨む
		まず自分で調べて学習しようとする姿勢
		自分の意見は根拠を備えた上で相手に伝える
		自分自身の考えに根拠を持つ
相手に学ぶ意欲を見せる	メモをする	教えてもらうときはメモを取り自分の知識を深める
		メモを取り、同じ失敗はしない
		必要なことはメモに取り記録する
	質問する	積極的に質問しわからないままにしない
		関心を持ち、積極的に質問・反応する
		説明の途中でも分からないと思ったらその都度質問する
	実践してみる	教えられたことを正しく実践してみる
		理解しようとしていることを態度で示す
		教えてもらったことはすぐにやってみる
	確認と報告をする	教えてもらったことを確認する
		実践したら報告する
		教わった内容を実施し得られた結果を報告する
学びを深める	理解を深める	実施後に振り返りを持ち改善点を見出す
		教えてもらったことを明確にする姿勢
		メンバー間で話し合い気づきを共有する姿勢
	学びを整理する	教える側の伝えたい要点を理解する
		整理して、必要性を理解しようとする姿勢
		ポイントを絞った質問をし内容を整理する
		教えてもらったことに対し整理して意見を述べる

するために、相手を尊重し謙虚な気持ちを持つことが重要であることを学んでいた。教えてもらうことは、受け身ではなく事前学習をしたり、わからないことを調べたりするなど主体的な学習が必要であることも学んでいた。

大学に入学し、高校までの学習スタイルとは異なり、自ら学ぶ姿勢を示すことや学習における相互作用の重要性を認識できたことが本研究

で明らかになった。今後の授業における受講姿勢に良い効果がみられることが期待できるであろう。

3. 今後の課題

今後の課題から抽出された3つのカテゴリからは、学びは相互作用であり、互いの立場を理解して、良好な関係性を築くことを課題としていた。これは藤岡ら(1998)が述べている「学ぶ

「SPP技術演習」における学びの検討

表3 今後の課題

カテゴリ	サブカテゴリ	コード
双方共通の配慮	双方が良好な関係で学習することを意識する	相手に素直な姿勢で接すること
		自分の改善点を見直し、人の言葉に耳を傾ける
		互いの立場を理解する
		相手とコミュニケーションを図ること
		協力して学んでいく姿勢
		良好な人間関係を築けるようにする
教えられる側の課題	積極的に学ぶ	積極的に新しいことを学ぼうという気持ちを持って勉強をする
		技術を盗む
		疑問に思ったことは理解できるまで質問し、反応できるようにする
		失敗や間違いを恐れない
	主体的に取り組む	学習主体は自分であることを忘れない
		学習した上で教えを請う
		分からないこともまずは一人で考えてみる
		自分が必要だと思う準備をしっかりとしていく
		予習・復習は必ず行う
		学修のまとめをする
	内容を整理し、理解を深める	根拠にもとづいた看護をめざし学習する
		納得するまで追求する
		物事を繋げて考えられるようにする
		自分の考えを説明できる
	知識を増やす	たくさんの知識を身につける
		正常な体の状態、疾患や治療、治癒過程に対しての正しい知識を持つ
		医学的な基礎学習をしっかりとやる
	実践力をつける	知恵、知識を使って実践する力
		指導者さんからヒントをもらいながら、問題解決ができるようにする
		常に考える援助を行う
教える側として気をつけること	相手を理解した対応をする	相手が分かるまで教える
		相手の学びの時間を確保すること
		信頼してもらえるように自分自身の行動を振り返る
		教えられる側の気持ちを考える
		相手の考えを否定せずに教える
	教える内容を十分理解しておく	自分の理解度を自己評価する
		事前学習をした上で、相手を理解し教える
	わかりやすい言葉で指導する	自分の知識を自分の言葉でoutputしていく
		簡潔にわかりやすく伝えること

ということも教えるということもそれぞれ独立した営みではなく、同時に互いに相手を前提として成り立つのである」と一致する。学生たちは、教えられる経験を通して、相手の立場に立ち相手を理解し、相手との良好な関係性を築くことの重要性を学んでいた。

臨地実習において看護学生は、受持ちの患者やその家族、受持ち以外の患者、患者を取り巻

く医療スタッフ、実習指導者、病棟スタッフ、等多くの人々と関わりをもつことになる。本研究では、「教えるとき」、「教えられるとき」という立場での基本姿勢について学生は、良い関係を築くために必要な姿勢についてレポートしていたが、相手の立場に立つということは「教えるとき」、「教えられるとき」の場面に限らない。このSPP技術演習という科目での気づきは、今

後の対人関係のあらゆる場面において活かされるであろう。

VIII. 本研究の限界と課題

本研究において、指導役の上級生の代わりを教員が行ったことで、学生間における関係性については言及することは困難である。しかし、2年後期において学生は4年生になった時のことを見据えて、教えるときの姿勢についても多くのことを学んでいた。彼らが4年生になった時、この経験をどのように活用し、下級生を指導するかを明らかにすることが今後の課題である。

IX. 結論

1. 教えるときの基本姿勢は、【教える側の基本スタンス】【相手に合わせた教え方の工夫】【教えることで得るもの】の3カテゴリに分類された。
2. 教えられるときの基本姿勢は、【教えられる側の基本態度】【主体的な学習姿勢】【相手に学ぶ意欲を見せる】【学びを深める】の4カテゴリに分類された。
3. 今後の課題は、【双方共通の配慮】【教えられる側の課題】【教える側として気をつけること】の3カテゴリに分類された。

謝 辞

本研究の実施にあたり、ご協力いただいた学生のみなさまに心より感謝申し上げます。

引用文献

- 加島亜由美, 樋口マキエ(2005): 臨地実習における看護学生のストレスとその対処法, 九州看護福祉大学紀要, Vol.7, No.1, 5-13.
- 藤岡完治, 森敏昭, 秋田喜代美ら(1997): 学ぶこと・教えること 学校教育の心理学, 金子書房
- 厚生労働省 (2017年9月15日検索). 新人看護職員研修ガイドライン【改訂版】
www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-10800000-Iseikyoku/0000049466_1.pdf
- 永井則子(2009): プリセプターシップの理解と実践 第3版 新人ナースの教育法, 日本看護協会出版会
- 大久保仁司, 平林志津保, 瀬川睦子(2008): 新卒看護師が入職後3か月までに感じるストレスと望まれる支援, 奈良県立医科大学医学部看護学科紀要, Vol.4, 26-33.
- 杉本幸枝, 山本智恵子, 土井英子(2012): 基礎看護学実習前の学生プリセプター方式による看護技術指導の効果と課題, 新見公立大学紀要, 33巻, 63-68.
- 寺澤明子 (2003): プリセプターシップにおけるプリセプターの看護専門職者としての成長過程, The Japanese Red Cross Hiroshima Coll. Nurs. 3, 45-52.
- 内野恵子, 島田涼子(2015): 本邦における新人看護師の離職についての文献研究, 心身健康科学, 11巻1号, 18-23.